

授業科目	英会話 I	単位/時間	15/15
開講学科等	福祉保育学科 1年	担当教員	福本みちる
授業の目的・テーマ	保育士として様々な場面で役に立つ英語を学びつつ、仕事で英語を使う大切さについて考える。		
授業の到達目標	実践的な英語に触れることにより、英語に自信をつける。		
授業の計画	1	Class Introduction:	26
	2	Unit 1: Self-Introduction	27
	3	Unit 2: Directions and Places	28
	4	Unit 3: Greetings	29
	5	Unit 4: Daily Activities I, Crafting	30
	6	Unit 5: Daily Activities II, Going for a Walk	31
	7	Unit 6: Daily Activities III, Playing Outside	32
	8	Unit 7: Food	33
	9	Unit 8: Nap Time	34
	10	Unit 9: Useful English Expressions	35
	11	Unit 10: School Events	36
	12	Unit 11: Time and Daily Plans	37
	13	Unit 12: Health	38
	14	Unit 13: Telephone Conversation	39
	15	Unit 14: Revision	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	英会話練習、リスニング練習、応用		
テキスト/参考文献	Happy English for Childcare, Maiko Tsuchiya, Kinseido, ISBN978-7647-4008-2		
評価の方法や基準	授業中の態度 (20%)、テキスト提出 (15%)、振り返り (15%) 期末試験 (50%)		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方	○		
実務経験	高校講師、塾講師など		
実務経験の活かし方	コースの初めと同じに「保育士に英語は必要か」について意見を書いてもらい、授業を通して生徒に考えてもらう。毎時間、その時間で学んだことの振り返りをする時間を設ける。		
履修上の注意事項			

授業科目	英会話 I (SC)		単位/時間	15/15
開講学科等	福祉保育学科 1 年		担当教員	福本みちる
授業の目的・テーマ	英会話Iで学んだことの振り返り。実践的な英語に触れることにより、英語に自信をつける。			
授業の到達目標	英会話Iで学んだことの振り返りを通して、プレゼンテーション（紙芝居、絵本、歌）などを準備し、発表、フィードバックをおこなう。実習に持って行ける英語のポスターなどを作成する。			
授業の計画	1	Childcare English I: Revision	26	
	2	Childcare English II: Revision	27	
	3	Presentation: Introduction	28	
	4	Presentation: Preparation	29	
	5	Presentation: Preparation	30	
	6	Presentation: Preparation	31	
	7	Presentation and Feedback	32	
	8	Presentation and Feedback	33	
	9	Childcare English III: Revision	34	
	10	Childcare English IV: Revision	35	
	11	Introducing English to Children	36	
	12	Making Posters	37	
	13	Making Posters	38	
	14	Making Posters and Feedback	39	
	15	The end of the Course Test and Feedback	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	英会話練習、リスニング練習、英語プレゼンテーション			
テキスト/参考文献	Happy English for Childcare, Maiko Tsuchiya, Kinseido, ISBN978-7647-4008-2			
評価の方法や基準	授業の態度（10%）、（プレゼンテーション（30%）、ポスター作成（30%）、筆記テスト（			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を				○
実務経験	高校講師、塾講師など			
実務経験の活かし方	英会話Iの振り返り プレゼンテーション（紙芝居、絵本、歌）やポスター作成の指導をしつつ、ガイドラインに沿った発表をさせる。			
履修上の注意事項				

授業科目	健康科学	単位/時間	1 / 15
開講学科等	福祉保育学科1年	担当教員	神家 美穂
授業の目的・テーマ	スポーツの意義や現代的課題について、知識・関心を深め健康と運動の関わりについて学ぶ。		
授業の到達目標	生涯を通じた健康づくりや体力づくりの基礎となる身体活動・スポーツの重要性を学び事故の健康観を見直すとともに、効果的な運動実践を習得することを目指す。		
授業の計画	1	オリエンテーション	26
	2	スポーツの語源	27
	3	スポーツの歴史的理解	28
	4	余暇とは	29
	5	余暇社会とスポーツ	30
	6	地域社会とスポーツ	31
	7	学校スポーツの問題点	32
	8	職場スポーツの問題点	33
	9	商業主義とスポーツ	34
	10	地域スポーツと施設	35
	11	地域スポーツと指導	36
	12	国民スポーツの組織と新スポーツ	37
	13	身体運動と健康	38
	14	運動処方	39
	15	トレーニングの科学的基礎	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	生涯スポーツ・健康科学（近畿大学九州短期大学・通信教育学部編）		
評価の方法や基準	レポート・筆記試験・出席率		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と活かし方を記載する			○
実務経験	非常勤講師（保育所・認定こども園）		
実務経験の活かし方	園で実践している健康づくりや体力づくりの指導・援助の事例を講義の中で取り上げることによって、具体的なイメージをもてるようにする。		
履修上の注意事項	テキスト必携		

授業科目	情報処理入門 I (PC実習編)	単位/時間	1/15
開講学科等	福祉保育学科1年	担当教員	福重 忠司
授業の目的 ・テーマ	Word、Excel、PowerPointの基本操作を学習し、社会に出て十分にパソコンが利用できる情報リテラシー能力を養成する。		
授業の 到達目標	ビジネス上で必要とされるWord、Excel、PowerPointの基本的なスキルを身に付け効率的なパソコンを使った作業ができる能力を身に付ける。		
授業の 計画	1	校内LANと学習環境について	26
	2	Windowsの基本操作について	27
	3	文書の作成と印刷(1) Word	28
	4	文書の作成と印刷(2) Word	29
	5	グラフィック機能の利用(1) Word	30
	6	グラフィック機能の利用(2) Word	31
	7	表の作成(1) Word	32
	8	表の作成(2) Word	33
	9	Excelの基礎知識	34
	10	表の作成と表計算(1) Excel	35
	11	表の作成と表計算(2) Excel	36
	12	グラフの作成(1)	37
	13	グラフの作成(2)	38
	14	データベースの利用	39
	15	PowerPointの基礎	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	パソコンを使った実習		
テキスト/参考文献	よくわかるWord/Excel/PowerPoint		
評価の方法 や基準	確認テスト、期末テスト(実技)、出席率		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験の活かし方を記述する			○
実務経験	学校運営に関するシステムの開発、学園内ネットワークの構築、各種ホームページの作成 国や県に提出する各種申請書類(学科設置、学則関係)の作成		
実務経験の 活かし方	ビジネス実務でよく使われるPCの操作を中心に、実用的なWord、Excelの使い方を指導す		
履修上の 注意事項	パソコンの文字入力や変換方法について一通りの知識があることが望ましい。		

授業科目	情報処理入門 I スクーリング(講義編)	単位/時間	1/15
開講学科等	福祉保育学科1年	担当教員	福重 忠司
授業の目的・テーマ	ネットワーク社会におけるコンピューター、通信技術の仕組みやさまざまな社会問題を理解し、正しい知識を身に付ける。		
授業の到達目標	1. ネットワーク社会における、様々な犯罪に巻き込まれないための知識とモラルを身につける。 2. 日常使われている情報処理に関する用語の概念を正しく理解する。		
授業の計画	1	インターネットの光と影	26
	2	情報化社会とは(1)	27
	3	情報化社会とは(2)	28
	4	コンピューターの発展と歴史	29
	5	コンピューターの仕組みとハードウェア	30
	6	オペレーティングシステム	31
	7	情報ネットワーク	32
	8	インターネットの仕組み	33
	9	情報セキュリティ	34
	10	情報化社会における問題点	35
	11	個人情報と著作権	36
	12	学習のまとめと確認テスト	37
	13	イラスト画の作成(基本)	38
	14	イラスト画の作成演習(1)	39
	15	イラスト画の作成演習(2)	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	テキストを使った講義		
テキスト/参考文献	近畿大学通信教育部テキスト		
評価の方法や基準	確認テスト(パソコンを使った試験システムで評価)、出席率		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験の活かし方を記述する			○
実務経験	学校運営に関するシステムの開発、学園内ネットワークの構築、各種ホームページの作成 国や県に提出する各種申請書類(学科設置、学則関係)の作成		
実務経験の活かし方	実務又は日常生活の中でネットワークを活用する場合に、様々なトラブルを回避するために身に付けておくべき知識を自らの経験をもとに授業で展開して行く。		
履修上の注意事項	情報処理入門 I (PC実習編)の授業を受けている学生が対象		

授業科目	日本国憲法	単位/時間	2単位/30時間
開講学科等	福祉保育学科1年	担当教員	佐藤章
授業の目的・テーマ	①日本国憲法の理念、特色、三大基本原理を理解する。②憲法に定められている、国会、内閣、裁判所の仕組みを理解し、国の様々な政策について関心を持ち、その内容を理解できるようになる。③日常生活や職場での諸課題を、規則や法律に基づいて処理、解決することができるようになる。④主権者として、選挙権の行使の際等に、政治的な判断ができるようになる。		
授業の到達目標	①日本国憲法の理念、特色、三大基本原理について、国民の基本的人権がどのように保障されているのかを理解する。②国会、内閣、裁判所の仕組みを理解し、国会で決められている法律や予算が国民の生活にどのように影響し、改善されているのかを学び、政治や経済政策に関心を持つことができるようになる。③社会的な事件や問題が法的にどのように解決されているのかを学び、日常生活や職場での諸課題の解決に生かすことができるようになる。		
授業の計画	1	第一章現代の憲法 I 憲法とは何か 1～3	26 IV 裁判所 1 司法権
	2	I 憲法とは何か 4～6	27 IV 裁判所 2 裁判所の組織 3 違憲審査制
	3	II 日本国憲法の制定 1・2	28 IV 裁判所 4 裁判の公開・V 地方自治 1 地方自治の保障
	4	II 日本国憲法の制定 3・4	29 V 地方自治 2 地方公共団体・3 地方公共団体の組織と権能
	5	第二章 I 国民主権、II 象徴天皇	30 第六章憲法の保障と改正 I 憲法の保障・II 憲法改正
	6	第三章平和主義 I 平和主義の現実	31
	7	II 平和主義と国際貢献、III 憲法第9条と集団的自衛権	32
	8	第四章基本的人権 I 基本的人権とは何か 1～3	33
	9	II 包括的基本権 1 個人の尊重と生命・自由・幸福追求権 2 法の下での平等	34
	10	III 精神的自由権 1 思想・良心の自由・2 信教の自由	35
	11	III 精神的自由権 3 学問の自由、4 表現の自由	36
	12	IV 経済的自由権 1 職業選択の自由、2 財産権の保障	37
	13	V 社会権 1 生存権・2 教育を受ける権利	38
	14	V 社会権 3 勤労の権利・2 労働基本権	39
	15	VI 人身の自由と刑事手続きの保障 1 一般原則・2 被疑者の権利	40
	16	VI 人身の自由と刑事手続きの保障 3 拷問・残虐な刑罰の禁止・4 刑事被告人の権利	41
	17	VII 国務請求権 1 裁判を受ける権利・2 国家賠償請求権	42
	18	VII 国務請求権 3 刑事補償請求権・4 請願権	43
	19	VIII 参政権、IX 国民の義務	44
	20	第五章統治機構 I 統治機構の原理	45
	21	II 国会 1 国会の地位・2 国会の構成	46
	22	II 国会 3 国会と議院の権能	47
	23	II 国会 4 国会の運営	48
	24	III 内閣 1 内閣と国会の関係 2 内閣の組織	49
	25	III 内閣 3 内閣の権能	50
授業の方法	一斉講義形式		
テキスト/参考文献	近畿大学九州短期大学通信教育部編『日本国憲法』		
評価の方法や基準	レポート50%、試験50%		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	高知県立高等学校社会科教員（倫理、現代社会、政治・経済、日本史、世界史、地理）、徳島文理大学教員（倫理学、教職科目）		
実務経験の活かし方	日本国憲法や法律が国民生活の諸課題の解決の役立ち、社会が改善に向かっているかを、関連するニュースや事例を提示して理解を深めてもらうよう、指導、支援を行う。		
履修上の注意事項	①教科書、講義レジュメ、ノート、配付資料は毎時間持参して下さい。②Google Classroomを活用します。毎回講義の出席確認と振り返り、必要に応じて、講義レジュメ、レポート、確認問題等の様式送付や週の間に連絡事項がある場合にも送らせてもらいます。またレポートも頻繁に出してもらいます。		

授業科目	幼児と音楽表現（声楽）SC	単位／時間	1単位／15時間（ピアノ含む）
開講学科等	福祉保育科1年	担当教員	北川 弘子
授業の目的 ・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい音程で歌うことができる ・歌唱技術の習得と共に、美しい日本語で歌い表現をする ・幼児教育現場で必要な幼児歌曲のレパートリーを広げる 		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・童謡唱歌、アニメソングなどを含む幅広い分野の幼児歌曲がピアノで弾き歌いできる ・近畿大学音楽スクーリング 試験合格 		
授業の計画	1	(2日間を通して)	26
	2	*課題曲の確認	27
	3	*コンコーネ課題曲レッスン	28
	4	*コールユーブンゲン課題曲レッスン	29
	5	*子どもの歌、課題曲のレッスン	30
	6	*発声法について	31
	7	*音符とリズムの理解	32
	8	*歌詞の意味を考えて歌うことについて	33
	9	*課題曲試験	34
	10		35
	11		36
	12		37
	13		38
	14		39
	15		40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義とレッスン（個人レッスン含）		
テキスト/参考文献	近畿大学・九州短期大学 声楽教本、ピアノ教本		
評価の方法 や基準	歌唱実技試験、授業態度など		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	・幼稚園教諭 ・音楽教室		
実務経験の活かし方	・ゼロスタートからの学生にも、わかりやすく歌唱法を指導する ・歌うことを通して”音楽の楽しさ”を伝えると共に、練習を重ねれば”出来る”ことを感じてもらう		
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・地道な読譜練習と発声練習を行うこと ・保育士希望者としての自覚を持ちながら臨むこと 		

授業科目	幼児と音楽表現SC	単位/時間	1 / 15 (声楽を含む)
開講学科等	福祉保育学科1年	担当教員	大野 美寿鈴
授業の目的・テーマ	基礎的な楽典、ソルフェージュの学習で読譜力を養い実技を通してピアノ演奏法の基本を学び簡単な弾き歌いを習得する。		
授業の到達目標	ピアノ演奏技術の向上、ハ長調、ト長調、ニ長調、ヘ長調の音階と、主要三和音を習得し記録表「幼児と音楽表現」を終了し合格を目指す。		
授業の計画	1	ガイダンス	26
	2	個人レッスン	27
	3	↓	28
	4	↓	29
	5	実技試験①	30
	6	↓	31
	7	↓	32
	8	評価 (全体・個人・アドバイス)	33
	9	個人レッスン	34
	10	↓	35
	11	↓	36
	12	実技試験②	37
	13	↓	38
	14	↓	39
	15	評価 (全体・個人・アドバイス)	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	個人レッスン・実技試験		
テキスト/参考文献	ピアノ教本 (近畿大学九州短期大学)		
評価の方法や基準	実技試験 授業態度		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	高等学校 (音楽科) ・短期大学 (幼児教育科) ・専修学校等での長年に至るピアノ指導と演奏活動		
実務経験の活かし方	ピアノ初心者にも丁寧にわかり易く導く。各自の資質と能力に応じた指導を心掛け更なる成長を促す。		
履修上の注意事項	毎回与えられた課題を必ず毎日練習することによって各段階の記録表の課題曲を終了しておくこと		

授業科目	教育心理学SC	単位／時間	1単位／15時間
開講学科等	福祉保育学科1年	担当教員	津江美和
授業の目的・テーマ	本講義では、乳幼児期の発達と学習の特徴について、基本的かつ現場で必要となる内容を理解していく。子ども達が充実感をもって安心して楽しく生活し、遊びを通して主体的に学ぶためには、保育者はどのような援助が可能であるのか。教育心理学の知見を活かしてほしい。		
授業の到達目標	①保育者にとって、教育心理学を学ぶ意義を知る。②発達、学習、動機づけ、記憶、集団と教師の役割などについて、基礎的知識を身につける。③事例を通して、さまざまな子どもへの関わりを考える。		
授業の計画	1	初期の発達（臨界期と敏感期）	26
	2	母性的養育（愛情と人間らしさ）	27
	3	事例考察：園では乱暴な子	28
	4	観察学習と洞察学習	29
	5	続く行動と行動随伴性	30
	6	事例考察：遊びに入れない子	31
	7	動機づけ（内発的動機づけと知的好奇心）	32
	8	記憶（長期記憶への転送）	33
	9	事例考察：課題に興味を示さない子	34
	10	身体機能と知的機能	35
	11	情緒と社会性	36
	12	言語機能と社会性	37
	13	学級集団（教師とピグマリオン効果）	38
	14	特別支援教育	39
	15	事例考察：発達障害のある子の就学	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	①基礎的知識についての講義②事例考察での考察とグループ討議		
テキスト/参考文献	伊藤健次（編）「保育に生かす教育心理学」（株）みらい 2008年		
評価の方法や基準	①授業への積極的参加（40%）②課題への記述（60%）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	小学校教諭（常勤5年）、幼稚園教諭（常勤6年）、カウンセラー等（非常勤3年）		
実務経験の活かし方	基礎的知識の講義においては、実際に現場で活用できる内容を厳選する。事例考察においては、現場で課題となることが多いであろうことについて取り上げ、学生の考察を促し、解説する。		
履修上の注意事項	事前と事後には教科書や配布資料を読み、主体的に学ぶ姿勢を大切にされたい。自分の将来の姿を思い描きながら、興味をもって参加されたい。		

授業科目	幼児の心理学	単位/時間	1 / 15
開講学科等	福祉保育学科1年	担当教員	津江 美和
授業の目的・テーマ	教育という場で生じる種々の要因と心への影響を概観していく。幼児期を中心に人間の発達とその特徴についてもりかしてゆく。		
授業の到達目標	子どもが安心感を持ちつつ学習効果を上げ、学校生活を過ごすことについて、考察を深める。それぞれの発達段階と課題について、特徴を述べる事が出来る。		
授業の計画	1	教育心理学と保育	26
	2	臨界期と環境	27
	3	第一反抗期とその理解	28
	4	Piagetの認知発達段階	29
	5	レスポナント学習とオペラント学習	30
	6	記憶の種類と記憶方略	31
	7	パーソナリティと性格検査	32
	8	知能と学力	33
	9	内発的動機付けと外発的動機付け	34
	10	相対評価と絶対評価	35
	11	発達障害と支援	36
	12	保育と集団	37
	13	小学校との連携	38
	14	愛着、基本的信頼感	39
	15	特別支援教育とは	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義形式であるが、学生の意見発表の場も設けたい。		
テキスト/参考文献	「保育に生かす教育心理学」伊藤健次		
評価の方法や基準	期末試験（80%）と学習態度（意見発表や考察記述や家庭学習：20%）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	小学校教諭、幼稚園教諭、カウンセラー等		
実務経験の活かし方	心理的要因と学習効果の関係などについて、事例をまじえて解説する。		
履修上の注意事項	将来の自分の立場、すなわち子どもと保護者を支援する姿を常に思い描きながら、毎時間の授業に取り組んでほしい。		

授業科目	健康（指導法）（スクーリング）	単位／時間	1 / 15
開講学科等	福祉保育学科 1 年	担当教員	神家 美穂
授業の目的・テーマ	幼稚園教育要領や保育所保育指針に示される「ねらい」「内容」などの「健康」領域の構造を理解する。		
授業の到達目標	「健康」に関する保育内容（①運動遊び ②基本的な生活習慣 ③健康・安全）について理解を深め保育者としての的確な援助が行える指導法を習得する。		
授業の計画	1	< 1 日目 >	
	2	健康の概念（健康観の変遷、WHO、「健康」定義）	
	3	体力の概念（体力の構成要素）	
	4	幼稚園教育要領における「健康」領域の「ねらい」「内容」	
	5	保育所保育指針における健康及び安全の確保	
	6	認定こども園教育・保育要領 まとめの課題	
	7		
	8	< 2 日目 >	
	9	安全管理と安全指導（環境設定、動線の配慮）	
	10	運動時に多い怪我の応急処置	
	11	生活リズム（栄養・運動・休養）に関する指導法	
	12	園外活動の意義と指導法	
	13	まとめの課題（園外活動における指導計画の作成）	
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針」フレーベル館 生涯スポーツ・健康科学（近畿大学九州短期大学通信教育学部編） 保育と幼児期の運動遊び（萌文書林）		
評価の方法や基準	まとめの課題レポート（40%）園外保育における指導計画の作成（60%）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	認定こども園、保育園において体育講師として乳幼児の体育指導を担当		
実務経験の活かし方	現在の乳幼児の指導経験を活かした具体的な健康の指導・援助法についての講義を行う。		
履修上の注意事項	テキスト必携		

授業科目	人間関係（指導法）（スクーリング）	単位／時間	1 / 15
開講学科等	福祉保育学科 1 年	担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	子どもの人間関係形成をめぐる諸課題についての理解を深めるとともに、他者理解を通して人の豊かなかかわりを経験することの意義学び、人との豊かなかかわりを育てる保育者としての役割について学習する。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「人間関係」に関する教育・保育内容および指導に関する知識・技術を習得する。 ・子どもの発達を領域「人間関係」の観点で捉え、子ども理解を深める。 		
授業の計画	1	< 1 日目 >	
	2	領域「人間関係」の観点	
	3	領域「人間関係」のねらいと内容	
	4	自己の形成と他者理解	
	5	集団における自己の発達	
	6	社会性の発達と遊び	
	7		
	8	< 2 日目 >	
	9	協力・競争・排除	
	10	思いやりと道徳性の芽生えと集団生活に必要な規範	
	11	子どものコミュニケーション	
	12	保育者の役割と指導について	
	13	まとめ	
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	対話的・深い学びの保育内容 人間関係（萌文書林）		
評価の方法や基準	試験（70%）授業への積極的参加（30%）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	幼稚園教諭		
実務経験の活かし方	幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。		
履修上の注意事項	求められた意見に積極的に答え、学習意欲を高める。		

授業科目	教育原理	単位/時間	2/30
開講学科等	福祉保育学科1年	担当教員	津江 美和
授業の目的・テーマ	将来子どもを教育する者として、教育の意義、教育制度、教育に関する法律、教育思想などについて学んでいく。		
授業の到達目標	教育原理での学びを通して、教育に携わる者の使命や責任、論理を自覚する。日本の学校教育の優れた面と課題とについて、各自の考察を深めてほしい。		
授業の計画	1	教育原理とは	26 連携と交流 学校評価 アカウンタビリティ
	2	教育をめぐる課題 日本国憲法前文	27 諸外国の学校制度
	3	教育の目的	28 複線型学校体系 単線型学校体系 分岐型学校体系
	4	目的と目標 教育基本法	29 教育者としての自己
	5	教育思想の歴史	30 幼稚園教員の資質向上について
	6	古代ギリシャ 西洋近世	31
	7	教育観	32
	8	教育理念 コメニウス～モンテッソーリ	33
	9	教育課程	34
	10	カリキュラム 教育基本法 学校教育法	35
	11	子どもの権利	36
	12	基本的人権 日本国憲法 子どもの権利条約	37
	13	評価	38
	14	指導要領 幼稚園教育要領	39
	15	教育制度	40
	16	公務員 教育権 日本国憲法第26条	41
	17	教員の専門性	42
	18	教育基本法第9条 教育公務員特例法	43
	19	生涯学習社会	44
	20	成人教育国際会議 教育振興基本計画	45
	21	幼児教育制度の変化	46
	22	農村部の育児習俗 幼稚園と保育所の歴史	47
	23	指導計画	48
	24	各園における教育課程 長期と短期計画	49
	25	地域と学校	50
授業の方法	講義形式であるが、学生の意見発表の場も設けたい。		
テキスト/参考文献	「教育原理 保育実践への教育学的アプローチ」 広田照幸 塩崎美穂		
評価の方法や基準	期末試験（80%）と学習態度（意見発表や考察記述や家庭学習：20%）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	小学校教諭、幼稚園教諭、カウンセラー等		
実務経験の活かし方	学校という場の社会的あり方について、事例から解説する。		
履修上の注意事項	各自にとって初見の専門用語等を主体的に調べ、学習に生かしてほしい。		

授業科目	造形表現（指導法）（授業45時間）		単位／時間	1 / 4 5
開講学科等	福祉保育学科1年		担当教員	松田雅子
授業の目的・テーマ	一般教養的な基礎を指導した後、指人形制作や、絵本作りなどを通じて、表現することの楽しさや実際の保育の現場で使用できる様々な技法を体験。自分で創作した絵本の読み聞かせや、オリジナルの指人形制作のほか、表現技法の幅を広げるため、作品鑑賞も体験してもらう。			
授業の到達目標	ものづくりを通じて技術指導だけでなく、指導者側の豊かな造形表現、ボキャボラリー、コミュニケーション能力を育てることを到達目標にしたい。			
授業の計画	1	①自己PR誌作成	26	・下描き
	2	初めて対面する学生達と、互いを知り、	27	・制作
	3	交流を深める。	28	〃
	4	②現場で遊べる様々な造形表現を体験	29	〃
	5	・フロタージュ	30	〃
	6	・デカルコマニー	31	〃
	7	・ドリッピング	32	・オリジナル絵本 読み聞かせ発表会
	8	・マーブリング	33	〃
	9	・スタンプング	34	実習造形報告
	10	・スクラッチ・コラージュ他	35	・実習先で体験・制作、目にした造形作品を
	11	③色彩指導	36	クラス全員の前で報告、発表、
	12	・色相環・トーン表などを用いて	37	その制作方法を学び合う。
	13	補色・同系色などの色彩理論を指導	38	〃
	14	・暖色系・寒色系で魚を表現する	39	〃
	15	平面構成によって色の感情を指導	40	課外実習（高知県美術展覧会日程に合わせる）
	16	・指人形制作	41	・高知県美術展覧会見学
	17	〃	42	（高知市文化プラザかるぼーと）
	18	〃	43	〃
	19	幼児造形の原理（映像を通じて）	44	振り返り
	20	〃	45	合評会
	21	手作り絵本作り	46	
	22	・たんたん画（技法の一例として）	47	
	23	〃	48	
	24	・様々な絵本に触れる	49	
	25	・お話作り	50	
授業の方法	子どもの姿が見える制作を通じて、必要など所で効果的に理論を配していけるよう指導			
テキスト/参考文献	近畿大学九州短期大学 造形表現（指導法） モーネ工房 こども寺子屋			
評価の方法や基準	創作の意欲、発想、態度、理論の理解、将来子どもと接する時のコミュニケーション能力。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	児童心理治療施設、こどもお絵描き教室を含む芸術指導歴30余年。新技法習得のため、ワークショップにも積極的に参加。執筆、音楽、映像、食育など、ジャンルにこだわらない様々な表現活動を展開中。			
実務経験の活かし方	実務経験におけるネットワーク作りを大切にし、こども達の心を育むものづくりの楽しさ、感動が、将来の指導者を通じてこども達に少しでも伝わるよう、アイデアを活かしている。			
履修上の注意事項	食・睡眠時間の確保。生活の改善。			

授業科目	造形表現（指導法）SC	単位／時間	1 / 15
開講学科等	福祉保育学科1年	担当教員	松田雅子
授業の目的・テーマ	この講義が、1年次の学生と最初に顔を合わせる講義となる。そのため、様々な素材や表現方法を通して自己を表現する楽しさを知り、幼児の造形表現への理解を深められるテーマを選んだ。造形表現が持つ、感動と驚きをスタートとしたい。		
授業の到達目標	表現者として主体的に取り組むことで、豊かな創造性を育み、必要な援助と成長を見守れる保育者の育成と実践的造形教育指導の習得を目指す。		
授業の計画	1	■折り紙研究	26
	2	魚、鳥、花、動物など	27
	3	テーマを決めて、折り紙作品を5つ以上制作	28
	4	■背景を加えて平面構成	29
	5	色鉛筆、クレヨンなど、折り紙の色を	30
	6	活かせる画材を用いて背景を作る	31
	7	■合成、平面構成	32
	8	■昨日と違うテーマの折り紙研究	33
	9	魚、鳥、花、動物など	34
	10	折り紙作品を5つ以上制作	35
	11	■背景を加えて平面構成	36
	12	色鉛筆、クレヨンなど、折り紙の色を	37
	13	活かせる画材を用いて背景を作る	38
	14	■合成、平面構成	39
	15	■合評会	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	自己紹介をした後、様々な技法を体験してもらう。自由な表現と真逆な平面構成も体験する。		
テキスト/参考文献	これまでの本校学生の参考作品集 モーネ工房 こども寺子屋		
評価の方法や基準	創作の意欲、発想、態度、理論の理解、将来こどもと接する時のコミュニケーション能力。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	児童心理治療施設、こどもお絵描き教室を含む芸術指導歴30余年。新技法習得のため、ワークショップにも積極的に参加。執筆、音楽、映像、食育など、ジャンルにこだわらない様々な表現活動を展開中。		
実務経験の活かし方	実務経験におけるネットワーク作りを大切にし、こども達の心を育むものづくりの楽しさ、感動が、将来の指導者を通じてこども達に少しでも伝わるよう、アイデアを活かしている。		
履修上の注意事項	食・睡眠時間の確保。生活の改善。		

授業科目	音楽表現（指導法）SC	単位／時間	1 単位/ 1 5 時間
開講学科等	福祉保育学科 1 年	担当教員	高野 慶子
授業の目的・テーマ	「表現」領域のなかの保育内容である表現あそびから、音楽表現に関するあそびについて保育者の指導・援助の在り方を考える。		
授業の到達目標	幼稚園教育・保育の領域「表現」に関するねらい及び内容、全体構造を理解する。また、音楽表現の観点から幼児の発達や学びの課程を理解し、実践的な指導法を身に付けるために必要な基礎的な知識、技能を習得する。		
授業の計画	1	教育要領・保育指針における領域「表現」	
	2	幼児と音楽との関わり、幼児への指導法、保育者の指導上の留意点	
	3	〃	
	4	音楽表現あそび 〈食べものがでてくる歌あそび〉	
	5	音楽表現あそび 〈生きものがでてくる歌あそび〉	
	6	音楽表現あそび 〈身体を使った歌あそび〉	
	7	音楽表現あそび 〈わらべうたあそび〉	
	8	音楽表現あそびの教材・情報収集	
	9	表現あそびの指導計画について	
	10	表現あそびの指導案作成	
	11	模擬保育発表及び指導・援助についての振り返り	
	12	〃	
	13	〃	
	14	様々な素材を使った音楽表現あそび	
	15	〃	
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
授業の方法	講義、演習		
テキスト/参考文献	資料配布		
評価の方法や基準	授業への積極的参加態度（発表内容含） 60% その他課題の記述内容 40%		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	保育園・幼稚園(認定こども園)勤務		
実務経験の活かし方	幼稚園教諭として経験してきた、リズム遊びや手遊び表現遊びなどについて事例としてあげ、楽しい音楽として身近に感じられるようにしたい。		
履修上の注意事項	筆記用具持参		

授業科目	幼児と環境	単位/時間	1 単位/15時間	
開講学科等	子ども未来学科1年	担当教員	鎌倉 奈緒美	
授業の目的・テーマ	人と環境の深いつながりを多面的（人的・物的環境、社会的環境、自然環境）にとらえて、特に子どもを取り巻く環境の大切さや深さを科学の目や人の心を通して学ぶ。			
授業の到達目標	環境は、多面的であることへの理解を深める。環境が人々（子どもを主体に）の暮らしや心と深く結びついていることを学ぶ。人々（子どもを主体に）の健康と関連した環境問題をより深く理解できる。自分自身（子どもの目を主体に）が解決できる環境問題や疑問についてを模索し、実行する。			
授業の計画	1	環境を人的・物的環境、社会的環境と 自然環境等から大きくとらえ理解する	13	子どもを守り育てる環境 命の大切さや気持ちの安定をはかる
	2	地球規模の環境問題や公害問題を 大きくとらえ理解する	14	気になる子どもの関係と環境 気になる子ども、障害のある子ども等
	3	子どもをとりまく人的環境 子ども同士、家庭、地域	15	環境を通しての学びや子ども達の今の課題 子どもをとりまく社会環境や保育環境等
	4	子どもをとりまく物的環境（1） 遊びと物、生活と道具、物の性質・仕組み		総体的な課題を理解する
	5	子どもをとりまく物的環境（2） 数量や図形、文字や標識、大切な物		
	6	子どもをとりまく社会的環境（1） 園や地域社会、関係機関の働き		
	7	子どもをとりまく社会的環境（2） 私たちの暮らしと環境		
	8	子どもをとりまく自然環境（1） 自然と文明について考えてみる		
	9	子どもをとりまく自然環境（2） 天然の自然と人工の自然を考えてみる		
	10	子どもをとりまく自然環境（3） 土佐の自然を知り、子ども達に伝える		
	11	子どもの生きる力を育む環境（1） 好奇心・探究心を育む環境		
	12	子どもの生きる力を育む環境（2） 表現、自立、道徳の心を育む環境		
	授業の方法	講義、グループワーク、ロールプレー、視聴覚教材		
	テキスト/参考文献	新しい保育講座9 保育内容「環境」		
	評価の方法や基準	レポート（30%）、定期試験（70%）		
	実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
	実務経験	幼稚園・保育園で保育者として勤務		
実務経験の活かし方	保育現場での具体的な保育実践を参考にしながら授業を展開していく			
履修上の注意事項	グループワークやロールプレーでは、各自の積極的な意見や行動を求める。			

授業科目	環境（指導法）スクーリング		単位／時間	1 単位/15時間	
開講学科等	子ども未来学科 1 年		担当教員	鎌倉 奈緒美	
授業の目的・テーマ	人と環境の深いつながりを多面的にとらえて、特にこどもを取り巻く環境の大切さや深さを科学の目や人の心、感覚を通して集中的に学ぶ。				
授業の到達目標	「モノ」「自然」「社会的」それぞれの環境が組み合わされて保育環境がつけられていることを学び、人々の暮らしや健康と関連した環境をより深く理解できる。				
授業の計画	1	環境について自身の考えを述べる 人の話に耳を傾ける	13	草花遊び（2） 自身の感覚や資料媒体から作品作製	
	2	高知県の自然環境を知る 身近な自然環境を学ぶ	14	草花遊び（3） 出来た作品の紹介と展示（画像保存）	
	3	身近な環境ウォッチング（1） 市内の環境を学ぶ	15	環境を通しての学びや課題の理解や発展 環境の持つ総合的な意味合いをまとめる	
	4	身近な環境ウォッチング（2） 武家屋敷の環境を学ぶ			
	5	遊びと環境（1） 外での集団遊び			
	6	遊びと環境（2） 室内での遊び			
	7	音楽と環境（1） 音楽を聴きと映像を合わせ観る			
	8	音楽と環境（2） 音楽と映像から感覚のスキルアップ			
	9	幼稚園と環境（1） 園内を散策し、五感を鍛える			
	10	幼稚園と環境（2） 自然的な環境と人工的な環境を学ぶ			
	11	幼稚園と環境（3） 好奇心・探究心を育む環境を学ぶ			
	12	草花遊び（1） 草花遊びの材料を探す			
	授業の方法	講義、視聴覚教材、グループワーク、実習（実技）			
	テキスト/参考文献	新しい保育講座 9 保育内容「環境」			
	評価の方法や基準	レポート（70%）、実習（30%）			
	実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	幼稚園・保育園で保育者として勤務				
実務経験の活かし方	保育現場での具体的な保育実践を参考にしながら授業を展開していく				
履修上の注意事項	グループワークやロールプレーでは、各自の積極的な意見や行動を求める。				

授業科目	言葉（指導法）SC	単位／時間	1 / 15	
開講学科等	福祉保育学科 1年	担当教員	森實 摩利子	
授業の目的 ・テーマ	・絵本のもつ力を知り、子どもたちにどうやって絵本を届けるかを考える			
授業の 到達目標	・絵本の力を知り、読むために必要な思いや技術を学ぶ ・グループワークで、子どもたちにどうやって絵本を届けるか話し合いまとめる			
授業の 計画	授業計画			
	<1日目>		<2日目>	
	①	絵本セラピー	① あなたの声で読む	
	②	絵本を深く味わう	② 絵本のいろいろを知る	
	③	絵本の持つ力を知る	③ 絵本の読み方①	
	④	ワールドカフェ	④ 絵本の読み方②	
	⑤	話す・聞く	⑤ オリジナルレシピ作り	
	授業の方法	座学 グループワーク		
	テキスト／参考文献	村中李衣 『保育をゆたかに 絵本でコミュニケーション』 かもがわ出版		
評価の方法や 基準	1日目：レポート 45% 2日目：レポート 45% 授業中の参加の様子（質問、発表など） 10%			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○	
実務経験	特別支援学校小学部臨時講師 児童発達支援事業所支援員 子育て支援センター 書店読み聞かせ 図書館読み聞かせ など			
実務経験の活 かし方	言葉の発達に対する知識と子どもと豊かにコミュニケーションをとるための工夫や技術 について事例を交えつつ授業を行う			
履修上の 注意事項	図書館の利用カードを作成し、実際に絵本を選び、借りたものを読むという実技を行う			

授業科目	幼児と言葉	単位/時間	1 / 15
開講学科等	福祉保育学科 1年	担当教員	森實 摩利子
授業の目的・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・人間にとっての話言葉や書き言葉などの『言葉』の意義と機能について理解する。 ・言葉の発達について発達段階に沿って学び、保育者としての関わり方を知る。 ・保育における絵本の役割について学び、絵本の選び方、読み方の技術を身につける。 		
授業の到達目標	言葉の発達について学び、子どもが豊かな表現を身につけ、想像する楽しさを広げるための保育者としての関わり方や技術を身につける。		
授業の計画	1	人の生活と言葉	26
	2	保育内容『言葉』 ①	27
	3	保育内容『言葉』 ②	28
	4	保育内容『言葉』 ③	29
	5	子どもの発達	30
	6	言葉の前の言葉	31
	7	振り返り ミニテスト 1	32
	8	障害のある子どもと言葉 ①	33
	9	障害のある子どもと言葉 ②	34
	10	わかりやすい伝えかた	35
	11	相手の言葉をひろげる聞き方	36
	12	保育内容『言葉』まとめ ミニテスト2	37
	13	絵本力アップ	38
	14	ビブリオバトル	39
	15	ビブリオバトル	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	座学 グループワーク 実技（絵本を選ぶ・絵本を読む）		
テキスト/参考文献	村中李衣 『保育をゆたかに 絵本でコミュニケーション』 かもがわ出版		
評価の方法や基準	ミニテスト 2回 (60%) レポート (30%) 授業中の参加の様子(質問、発表など) 10%		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	特別支援学校小学部臨時講師 児童発達支援事業所支援員 子育て支援センター 書店読み聞かせ 図書館読み聞かせ など		
実務経験の活かし方	言葉の発達に対する知識と子どもと豊かにコミュニケーションをとるための工夫や技術について事例を交えつつ授業を行う		
履修上の注意事項	図書館の利用カードを作成し、実際に絵本を選び、借りたものを読むという実技を行う		

授業科目	幼児と人間関係	単位/時間	1単位 / 15時間
開講学科等	福祉保育学科1年生	担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	領域『人間関係』より子どもを取り巻く人間関係の現状を把握し、支援が必要なポイントを把握する。また、発達過程に応じた人との関わりについて考え、子どもの成長と向き合う。		
授業の到達目標	領域『人間関係』に関する知識を得、子ども個人の成長と、仲間集団の成長との双方に配慮しながら具体的な指導を行う実践力の基礎を培う。		
授業の計画	1	「幼児と人間関係」 学習ガイダンス	26
	2	領域「人間関係」の社会的背景	27
	3	子どもの発達と人間関係	28
	4	領域「人間関係」のねらいと内容	29
	5	〃	30
	6	保育者のかかわり方と集団作り	31
	7	対話から生まれる「共同的な学び」	32
	8	幼児教育・保育における子ども同士の関係	33
	9	〃	34
	10	子どもとのかかわりを通じた幼児理解と評価	35
	11	〃	36
	12	特別な支援を必要とする子どもの援助	37
	13	子どもの家庭背景を踏まえた幼児教育・保育の視点	38
	14	〃	39
	15	まとめ	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	一斉授業・レポート		
テキスト/参考文献	幼児と人間関係（同文書林）		
評価の方法や基準	学習した事例内容からレポート試験、平素の学習態度（出席状況を含む）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	幼稚園教諭		
実務経験の活かし方	幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。		
履修上の注意事項	求められた意見に積極的に答え、学習意欲を高める。		

授業科目	社会福祉		単位/時間	2単位/30時間
開講学科等	福祉保育学科 1年		担当教員	柴岡 由絵
授業の目的・テーマ	福祉専門職として必要な社会福祉に関する体系的な理論と技術を学ぶ。			
授業の到達目標	社会福祉に関する法制やサービスの概要を理解し、現代社会が抱える福祉課題に対して、どのような支援が行われているのかについて理解を深め、考察していく。			
授業の計画	1	社会福祉とは ①	26	社会福祉施設の役割 ④
	2	社会福祉とは ②	27	社会福祉を担う人々
	3	日本の社会福祉の歴史 ①	28	相談援助の目的と方法
	4	日本の社会福祉の歴史 ②	29	社会福祉をめぐる課題 ①
	5	社会福祉制度と社会福祉を展開する組織 ①	30	社会福祉をめぐる課題 ②
	6	社会福祉制度と社会福祉を展開する組織 ②	31	
	7	児童福祉 ①	32	
	8	児童福祉 ②	33	
	9	障害者福祉 ①	34	
	10	障害者福祉 ②	35	
	11	高齢者福祉 ①	36	
	12	高齢者福祉 ②	37	
	13	介護保険制度と専門職の役割 ①	38	
	14	介護保険制度と専門職の役割 ②	39	
	15	低所得者福祉 ①	40	
	16	低所得者福祉 ②	41	
	17	地域福祉 ①	42	
	18	地域福祉 ②	43	
	19	医療福祉 ①	44	
	20	医療福祉 ②	45	
	21	精神保健福祉 ①	46	
	22	精神保健福祉 ②	47	
	23	社会福祉施設の役割 ①	48	
	24	社会福祉施設の役割 ②	49	
	25	社会福祉施設の役割 ③	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	「コメディカルのための社会福祉概論」 講談社			
評価の方法や基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、レポートの作成及び筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点(20%) 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	児童養護施設保育士 社会福祉協議会ボランティアコーディネーター 介護老人福祉施設生活相談員 居宅介護支援事業所介護支援専門員 高齢者施設管理者・FM(在宅)			
実務経験の活かし方	各テーマについて講義を行ったあと、事例等を紹介し、意見交換を行いながら理解を深めていく。			
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義終了後、テキストや配布資料に再度目をとおり、発達や子育て支援をめぐる課題についてや理解を深める。 			

授業科目	社会的養護 I	単位/時間	2単位/30時間
開講学科等	福祉保育学科 1年	担当教員	高野 隆司
授業の目的・テーマ	社会的養護を必要とする子どもの現状と社会的養護の意義と保育者としての役割について学ぶ。		
授業の到達目標	社会的養護における子どもの権利擁護について理解する。 施設養護及び家庭的養護並びに糧の役割や機能について理解する。		
授業の計画	1	社会的養護とは何か	26 施設等の運営管理の状況 ②
	2	社会的養護の基本理念	27 被措置児童等の虐待防止 ①
	3	社会的養護の歴史の変遷 ①	28 被措置児童等の虐待防止 ②
	4	社会的養護の歴史の変遷 ②	29 社会的養護と地域福祉
	5	子どもの人権 ①	30 まとめ
	6	子どもの人権 ②	31
	7	社会的養護の基本原則 ①	32
	8	社会的養護の基本原則 ②	33
	9	社会的養護における保育士 ①	34
	10	社会的養護における保育士 ②	35
	11	社会的養護の制度 ①	36
	12	社会的養護の制度 ②	37
	13	社会的養護の制度 ③	38
	14	社会的養護の制度 ④	39
	15	社会的養護とファミリーソーシャルワーク ①	40
	16	社会的養護とファミリーソーシャルワーク ②	41
	17	社会的養護の対象と支援 ①	42
	18	社会的養護の対象と支援 ②	43
	19	家庭養護と施設養護 ①	44
	20	家庭養護と施設養護 ②	45
	21	社会的養護における専門職 ①	46
	22	社会的養護における専門職 ②	47
	23	社会的養護と社会の状況 ①	48
	24	社会的養護と社会の状況 ②	49
	25	施設等の運営管理の現状 ①	50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	「社会的養護 I」 中央法規		
評価の方法や基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、レポートの作成及び筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(20%) 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	公認心理師資格(国家資格) 社会福祉士資格(国家資格) 児童心理療育施設副施設長 児童家庭支援センター・母子生活支援施設心理療法担当職員		
実務経験の活かし方	各テーマについて講義を行ったあと、事例等を紹介し、意見交換を行いながら理解を深めていく。		
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義終了後、テキストや配布資料に再度目をとおり、発達や子育て支援をめぐる課題についてや理解を深める。 		

授業科目	劇あそび（指導法）	単位／時間	1 / 15
開講学科等	福祉保育学科1年	担当教員	瀬川 佳津江
授業の目的・テーマ	基本ステップ、リズムダンス、模倣表現、自由表現など、動きのリズムを中心とした活動を展開。子どもの持つ豊かな感性・表現力を引き出すための指導法・援助法を体得する。		
授業の到達目標	子どもの表現を育てる実践力と指導法を身に付ける。		
授業の計画	1	ウォーミングアップ（心と体をほぐすために）	26
	2	音で遊びながら表現力を身に付ける	27
	3	ねらい 課題提示	28
	4	指導者の運びで動く	29
	5	イメージと動きをつなぐ	30
	6	（動く→書く→話し合う）	31
	7	小さな動きから大きい動きへ	32
	8	まねっこから自分の動きへ	33
	9	友達（仲間）との関わりを大切にグループで	34
	10	さらにイメージを広める	35
	11	創作	36
	12	各グループ内で発表（個々の表現力向上）	37
	13	感想 まとめ 意見交換	38
	14	グループ発表 評価	39
	15	初心者向きヒップホップ系のダンス（創作応用）を振付師の指導で踊る	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	実技実践		
テキスト/参考文献	なし		
評価の方法や基準	授業意欲・態度		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	体操競技ジュニア大会選手指導・高知国体式典振り付け指導・子どもミュージカル指導		
実務経験の活かし方	子どもの表現や動きから、内面（心）を読み取り、安定、不安定に寄り添っていく。		
履修上の注意事項	動きやすい服装（ジャージ上下）シューズ タオル、水分各自持参 筆記用具持参		

授業科目	教育課程総論	単位／時間	2単位 / 30時間
開講学科等	保育福祉学科1年	担当教員	徳弘 美穂
授業の目的・テーマ	幼児教育の教育課程について、その全容を学習し、幼児教育の本質について理解する。 テーマ：教育課程は各園や幼児の実態に応じて編成され展開することを理解する。		
授業の到達目標	保育所・幼稚園などの現場において、目の前の子どもの姿から興味・関心にそって、自ら考え指導計画を作成できる力がつくことを目指す。		
授業の計画	1	「教育課程総論」 学習ガイダンス	26 指導計画の作成③
	2	保育における計画の意義	27 指導計画の作成④
	3		28 小学校との接続
	4	日本におけるカリキュラムの基礎理論	29 現代の課題を踏まえて
	5		30 まとめ
	6	子ども理解に基づく保育の循環	31
	7		32
	8	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ・改定（訂）内容	33
	9		34
	10		35
	11	幼稚園の教育課程の編成の基本原則と方法	36
	12		37
	13	保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原則と方法	38
	14		39
	15	幼稚園指導計画の作成	40
	16		41
	17	保育所・認定こども園の指導計画の作成	42
	18	保育の評価	43
	19		44
	20	指導計画の作成	45
	21	教育課程編成の手順	46
	22	「指導」の意義	47
	23	指導計画の意義	48
	24	指導計画の作成①	49
	25	指導計画の作成②	50
授業の方法	一斉授業・班学習（討議、発表、レポート）		
テキスト/参考文献	教育・保育カリキュラム論（中央法規）・あたらしい幼児教育課程総論（同文書院）・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説		
評価の方法や基準	筆記試験、レポート、意見発表、平素の学習態度（出席状況を含む）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	幼稚園・保育園で保育者として勤務		
実務経験の活かし方	保育現場での具体的な保育実践を参考にしながら授業を展開していく		
履修上の注意事項	学習内容が理解できるようにノート作成方法も学ぶ。		

授業科目	教職概論		単位/時間	2単位/30時間
開講学科等	福祉保育学科1年		担当教員	佐藤章
授業の目的・テーマ	教育とは何か、教師（保育者）としての資質能力、教師の歴史、子どもに対する指導・支援の方法、カウンセリングマインド、教師の職務内容を学び、実践で生かせるようになる。			
授業の到達目標	①教師（保育者）としての資質・能力、適性を認識し、その資質を身につけるために学びを続け、実践で生かせるようになる。②教育の歴史（幼児教育を含む）、教育思想を学び、現在の幼児教育、保育がどのようにして生まれたかを知り、それらを踏まえた保育実践ができるようになる。③現在行われている幼児教育（保育）の実践方法を学び、現場で適切な指導、援助ができるようになる。④現在学校教育での取り組み（授業改善、カリキュラムマネジメント、教科担任制、カウンセリングマインド、特別支援教育、グローバル教育、ICT活用等）を学び、幼保・小の連携に役立てることができるようになる。⑤教育に関する法令、国の新しい施策や教育改革の動きを理解し、教師（保育者）に求められる役割や社会的意義を認識できるようになる。			
授業の計画	1	第1章教育とは何か	26	第11章教育改革とこれからの教師 §2の2・3
	2	第2章教職とは何か §1、 §2	27	第12章教職の専門性と研修 §1の1～3
	3	第2章教職とは何か §3	28	第12章教職の専門性と研修 §1の4～6
	4	第3章日本における教師の歴史 §1、2	29	第12章教職の専門性と研修 §2
	5	第3章日本における教師の歴史 §3～5	30	まとめ
	6	第4章現代社会の子ども §1、2	31	
	7	第4章現代社会の子ども §3、4	32	
	8	第5章幼稚園・保育所・認定こども園の生活と遊び §1 クラス担任の一日と一年の1・2	33	
	9	第5章幼稚園・保育所・認定こども園の生活と遊び §1の3・4	34	
	10	第5章 §2 幼稚園・保育所・認定こども園の遊びの1・2	35	
	11	第5章 §2の3・4	36	
	12	第5章 §2の5・6	37	
	13	第6章小学校での学習と専科教員 §1	38	
	14	第6章小学校での学習と専科教員 §2	39	
	15	第7章学校にかかわりをもつ人々 §1、2	40	
	16	第7章学校にかかわりをもつ人々 §3	41	
	17	第8章カウンセリングマインド §1、2	42	
	18	第8章カウンセリングマインド §3	43	
	19	第9章教師をめぐる新しい動き §1	44	
	20	第9章教師をめぐる新しい動き §2	45	
	21	第10章教師をめぐる法律 §1	46	
	22	第10章教師をめぐる法律 §2・3	47	
	23	第10章教師をめぐる法律 §4	48	
	24	第11章教育改革とこれからの教師 §1	49	
	25	第11章教育改革とこれからの教師 §2の1	50	
授業の方法	一斉講義形式			
テキスト/参考文献	古橋和夫編『新訂教職入門』萌文書林1900円＋税			
評価の方法や基準	レポート50%、試験50%			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	高知県立高等学校社会科教員（倫理、現代社会、政治・経済、日本史、世界史、地理）、徳島文理大学教員（倫理学、教職科目）			
実務経験の活かし方	現在教育現場で進められている、チーム学校や授業方法の工夫・改善、教育改革の流れを授業の説明の中で伝えていきたい。			
履修上の注意事項	①教科書、講義レジュメ、ノート、配付資料は毎時間持参して下さい。②グーグルクラスルームを活用します。毎回講義の出席確認と振り返り、必要に応じて、講義レジュメ、レポート、確認問題等の様式送付や週の間に連絡事項がある場合にも送らせてもらいます。またレポートも頻繁に出してもらいます。			

授業科目	保育内容総論（スクーリング）		単位／時間	1／15
開講学科等	福祉保育学科1年		担当教員	徳弘 美穂
授業の目的 ・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針における保育内容を理解するとともに保育の全体的な構造を理解する ・ 養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する ・ 保育の多様な展開について具体的に学ぶ 			
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針の内容を学ぶ 			
授業の計画	1	保育所保育指針に基づく保育の全体構造	26	
	2	保育所保育指針に基づく保育内容の理解①養護にかかわる内容	27	
	3	保育所保育指針に基づく保育内容の理解②教育にかかわる内容	28	
	4	保育内容の歴史の変遷とその社会的背景	29	
	5	子どもの発達の特性と保育内容	30	
	6	養護と教育が一体的に展開される保育	31	
	7	子どもの主体性を尊重する保育	32	
	8	環境を通して行う保育	33	
	9	生活や遊びによる総合的な保育	34	
	10	個と集団の発達をふまえた保育	35	
	11	家庭や地域等との連携をふまえた保育	36	
	12	小学校との連携・接続をふまえた保育	37	
	13	長時間の保育	38	
	14	特別な配慮を必要とする子どもの保育	39	
	15	多文化共生の保育	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義、演習			
テキスト/参考文献	参考文献「保育内容総論」			
評価の方法 や基準	出席状況、授業態度、確認テスト			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	幼稚園・保育園で保育者として勤務			
実務経験の活かし方	保育現場での具体的な保育実践を参考にしながら授業を展開していく			
履修上の注意事項	なし			

授業科目	音楽（理論）	単位／時間	1 単位/ 1 5 時間
開講学科等	福祉保育学科 1 年	担当教員	大野 美寿鈴
授業の目的・テーマ	歌うこと・ピアノを弾くことに於いて先ずは読譜力が必須である。その為の基礎となる音楽理論を学ぶ。		
授業の到達目標	幼児と音楽表現・音楽表現技術の曲が自主的に学習出来て弾き歌いのレパートリーを増やす。		
授業の計画	1	第 1 章 歌	26
	2	第 2 章 楽譜（その 1）	27
	3	〃	28
	4	第 3 章 楽譜（その 2）	29
	5	〃	30
	6	第 4 章 音程	31
	7	〃	32
	8	第 5 章 楽譜（その 3）	33
	9	第 6 章 音階と調	34
	10	〃	35
	11	第 7 章 和音	36
	12	〃	37
	13	第 8 章 楽式	38
	14	第 9 章 演奏	39
	15	まとめ・テスト	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義・実践・確認テスト		
テキスト/参考文献	音楽（理論）・音楽（理論）レポート設題集・その他		
評価の方法や基準	テスト・出席率・授業態度		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	高等学校(音楽科)・短期大学(幼児教育科)講師		
実務経験の活かし方	音楽知識ゼロの学生にも分かり易く指導し読譜力が出来て歌ったり弾いたりすることが自力で学習出来るように導く。理論の必要性を認識させる。		
履修上の注意事項	欠席のないように。講義は集中して受け、もし理解出来ないことがあればその時間に質問して解決させて確認テストで理解度を再確認して貰う。読譜力upへ。		

授業科目	音楽[ピアノ]①		単位/時間	1/30
開講学科等	福祉保育学科1年		担当教員	大野 美寿鈴
授業の目的 ・テーマ	ピアノ音楽の基礎技術を学習し、実技を通して習得する。			
授業の 到達目標	幼児と音楽表現の課題を終了し一年次のグレード試験の合格を目指す。			
授業の 計画	1	(前期) オリエンテーション・講義→実技	26	
	2		27	
	3		28	
	4		29	
	5		30	
	6		31	↓
	7		32	
	8		33	
	9		34	
	10		35	
	11		36	
	12		37	
	13		38	
	14		39	
	15	↓	40	
	16	(後期)	41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	↓
授業の方法	同質2グループで行う。電子ピアノを各自使用。講義と実技全体指導。個別指導。			
テキスト/参考文献	ピアノ教本(近畿大学九州短期大学)・リズムの基礎			
評価の方法 や基準	実技試験・平常時の課題可否及び学習態度・出席率			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	高等学校(音楽科)・短期大学(幼児教育科)・専修学校等での長年に至るピアノ指導と演奏活動			
実務経験の活かし方	ピアノ初心者にも丁寧にわかりやすく導く 各自の資質と能力に応じた指導を心掛け、更なる成長を促す。			
履修上の 注意事項	最も重要な譜読力のもと実践を積み重ねる事で演奏の基礎力が出来る。従って段階的学習の必要性から欠席すること無く講義によく集中し、 <u>毎回与えられた課題を必ず毎日練習する事が大切である。</u>			

授業科目	音楽[声楽]①	単位/時間	1 単位/30 時間	
開講学科等	福祉保育科 1 年	担当教員	北川 弘子	
授業の目的 ・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい音程で歌を歌うことができる・歌唱技術の習得と共に、きれいな日本語で歌い表現をする ・幼児教育現場に必要な幼児歌曲のレパートリーを広げる 			
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い分野の幼児歌曲が歌える ・近畿大学音楽スクーリング試験に合格する 			
授業の計画	1	<前期 14回通して>	26	
	2	* 基本的な発声法、歌唱法について	27	
	3	* 音符とリズムの理解	28	
	4	* コンコーネNo. 1の読譜とレッスン	29	↓
	5	* コールユーブンゲンNo. 1, 2, 3, 4, 5, 6読譜とレッスン	30	後期末試験
	6	* 「ピアノ教本」子どもの歌を歌う	31	
	7	* 個人レッスン	32	
	8	* その他の童謡唱歌、子供のうたの歌唱	33	
	9		34	
	10		35	
	11		36	
	12		37	
	13		38	
	14		39	
	15	前期末試験	40	
	16	夏休み課題の発表	41	
	17	<後期 13回通して>	42	
	18	* コンコーネNo. 2の読譜とレッスン	43	
	19	* コールユーブンゲンNo. 9, 10, 11, 12, 13, 14ab, 15ab	44	
	20	* 「ピアノ教本」子どもの歌を歌う	45	
	21	* 個人レッスン	46	
	22	* スクーリング試験対策	47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義とレッスン（個人レッスン含）			
テキスト/参考文献	配布プリント、近畿大学・九州短期大学 声楽教本、器楽教本			
評価の方法 や基準	歌唱実技試験、授業態度など			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○	
実務経験	・幼稚園教諭 ・音楽教室			
実務経験の活かし方	・ゼロスタートからの学生にも、わかりやすく歌唱法を指導する ・歌うことを通して”音楽の楽しさ”を伝えると共に、練習を重ねれば”出来る”ことを感じてもらう			
履修上の注意事項	・地道な読譜練習と発声練習を行うこと ・歌は”歌う”ことであって、口ずさむことではないことを心掛けながら保育士としての自覚を持ちながら臨むこと			

授業科目	レッスン I	単位/時間	2 / 60		
開講学科等	福祉保育学科 1 年	担当教員	山中春奈		
授業の目的・テーマ	音楽（器楽・声楽）での課題及び実習で使用する曲のピアノ及び弾き歌いの技術習得のためのレッスンをを行う。				
授業の到達目標	保育現場で実践できるように、日々のレッスンのなかで、技術を習得する。				
授業の計画	1	目標の設定（スクーリングに向けて）	26	目標の確認④	
	2	器楽の進行のレッスンの補助	27	↓	
	3		28		
	4		29		
	5	↓		30	↓
	6	目標の確認①	31	目標の確認⑤	
	7	目標の到達のための補助と確認	32	↓	
	8		33		
	9		34		
	10	↓		35	↓
	11	目標の確認②	36	目標の確認⑥	
	12		37	↓	
	13		38		
	14		39		練習
	15	↓		40	↓
	16	目標の確認③	41	目標の確認⑦	
	17		42	↓	
	18		43		
	19		44		
	20	↓		45	↓
	21	目標の確認④	46	目標の確認⑧	
	22		47	↓	
	23		48		
	24		49		
	25	↓		50	↓
授業の方法	個人レッスン 各自レッスン				
テキスト/参考文献	近畿大学九州短期大学 音楽ピアノ教本				
評価の方法や基準	出席状況 意欲 進捗状況				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○				
実務経験	幼稚園勤務				
実務経験の活かし方	保育現場での具体的な保育実践を参考にしながら授業を展開していく				
履修上の注意事項	テキスト、ヘッドフォン、筆記用具を持参。授業以外にも各自での練習に励むこと。				

授業科目	レッスン I	単位/時間	2 / 60
開講学科等	福祉保育学科 1年	担当教員	山中 春奈
授業の目的・テーマ	音楽（器楽・声楽）での課題及び実習で使用する曲のピアノ及び弾き歌いの技術習得のためのレッスンを行う。		
授業の到達目標	保育現場で実践できるように、日々のレッスンのなかで、技術を習得する。		
授業の計画	51	進捗状況の確認	
	52	↓	
	53		
	54		
	55		
	56		目標の確認⑦
	57	スクーリングに向けて振り返り練習	
	58	↓	
	59		
	60	反省と今後の課題	
	61		
	62		
	63		
	64		
	65		
	66		
	67		
	68		
	69		
	70		
71			
72			
73			
74			
75			
授業の方法	個人レッスン 各自レッスン		
テキスト/参考文献	近畿大学九州短期大学 音楽ピアノ教本		
評価の方法や基準	出席状況 意欲 進捗状況		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	幼稚園勤務		
実務経験の活かし方	保育現場での具体的な保育実践を参考にしながら授業を展開していく		
履修上の注意事項	テキスト、ヘッドフォン、筆記用具を持参。授業以外にも各自での練習に励むこと。		

授業科目	保育研究 I		単位/時間	1 / 30
開講学科等	福祉保育学科 1 年		担当教員	瀬川 佳津江
授業の目的・テーマ	幼児期の運動の重要性を理解、勉強する。幼児期の運動はその後の人間形成をも左右するといわれている。運動により形成される習慣・身体・精神能力等、発達メカニズムを体験・実践する。			
授業の到達目標	子どもの心を育てる指導法を身に付ける。			
授業の計画	1	保育士の基礎運動	26	力を抜いてリラクゼーション
	2	自己の体力・運動能力の把握	27	自分の体と対話 (呼吸)
	3	将来の目標の設定	28	友達との対話
	4	トレーニングの理論と方法	29	(背中でおしゃべり リラックス
	5	各自の目標に応じたトレーニングプログラムの構成	30	ジャンプ 歩き ブラブラ体操)
	6	トレーニングの実践① 音楽に合わせた持久系トレーニングと柔軟性のトレーニング	31	
	7		32	
	8		33	
	9	トレーニング実践② 筋力系トレーニング	34	
	10		35	
	11		36	
	12		37	
	13		38	
	14	柔軟性を高める	39	
	15	〃	40	
	16	〃	41	
	17	子どもの基本運動	42	
	18	体ほぐし (心ほぐし)	43	
	19	楽しく弾む身近な遊び	44	
	20	じゃんけん遊び	45	
	21	のりのりダンス	46	
	22	鬼ごっこ遊び	47	
	23	手具を使って	48	
	24	ボール (投げる 受ける)	49	
	25	風船・縄・リング新聞紙	50	
授業の方法	実技実践			
テキスト/参考文献	なし			
評価の方法や基準	実技試験 出席率			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	体操競技ジュニア大会選手指導・高知国体式典振り付け指導・子どもミュージカル指導			
実務経験の活かし方	子どもの表現や動きから、内面 (心) を読み取り、安定・不安定に寄り添っていく。			
履修上の注意事項	特に無し			

授業科目	実習指導 I	単位/時間	1 / 15
開講学科等	福祉保育学科 1 年	担当教員	徳弘 美穂
授業の目的・テーマ	保育実習について理解をし、実習における心構えや日誌の書き方、指導案の立て方などを学ぶ。実習後には振り返りをし、それぞれの成果・課題を見つけ次へつなげていけるようにする。		
授業の到達目標	保育実習について学び、保育の理論・技術に興味・関心を持たす。		
本の目次	1	保育実習の目的・内容	26
	2	実習の方法	27
	3	保育所について	28
	4	保育士の役割	29
	5	〃	30
	6	子ども理解について	31
	7	〃	32
	8	〃	33
	9	日誌の書き方	34
	10	〃	35
	11	〃	36
	12	指導案の立て方	37
	13	〃	38
	14	〃	39
	15	まとめ	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド』		
評価の方法や基準	出席状況 意欲 進捗状況		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	幼稚園・保育園で保育者として勤務		
実務経験の活かし方	保育現場での具体的な保育実践を参考にしながら授業を展開していく		
履修上の注意事項			

授業科目	ベーシック・コミュニケーション		単位/時間	15
開講学科等	福祉保育学科1年		担当教員	竹谷 渚
授業の目的・テーマ	社会人として求められる基本的なマナーとコミュニケーション能力を身につけることを目的とする 接遇とは何か、想像する力・引き出しの増やし方を知る			
授業の到達目標	気持ちの良い身だしなみ、言葉遣い、動作ができるようになること 愛される人になることを目標とする			
授業の計画	1	社会人としての心構え 接遇とは	身だしなみ・お辞儀・笑顔チェック	26
	2	お辞儀・挨拶		27
	3	入退室の仕方		28
	4	〃		29
	5	入退室 テスト / 一般知識①		30
	6	座り方・立ち方		31
	7	歩き方・立ち居振る舞い		32
	8	名刺		33
	9	名刺テスト / 一般知識②		34
	10	敬語と謙譲語①		35
	11	敬語と謙譲語 テスト / 一般知識③		36
	12	電話 基本		37
	13	電話 基本		38
	14	電話 応用		39
	15	電話 テスト		40
	16			41
	17			42
	18			43
	19			44
	20			45
	21			46
	22			47
	23			48
	24			49
	25			50
授業の方法	講義・実技 スーツ着用			
テキスト/参考文献	実践ビジネスマナー			
評価の方法や基準	実技試験、授業態度、出席率			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	ホテルフロント業務 接客業			
実務経験の活かし方	実践を多く取り入れより本番に近い環境で授業を行う			
履修上の注意事項	授業だけでなく、日々の学校生活での挨拶、身だしなみから意識する事を心がける			

授業科目	親学	単位/時間	1 / 15
開講学科等	福祉保育学科1年	担当教員	高野 慶子
授業の目的・テーマ	近年顕著である少子化や核家族化によって親子関係は大きく変化し、親子の密着や過干渉、また逆に育児放棄などが深刻な問題となって現れています。「親学」はこうした問題にも対応するとともに、学んだ人が「親学」を実践し、自らの成長を、子どもに、学校に、地域にと照射していくことによって、社会をよりよい方向へ変えていくことを目指すことを、目標とする。		
授業の到達目標	親がすべき最も大事な「親自身が変わり、成長しなければならない」＝主体変容の心を身に付ける。		
授業の計画	1	自己の成長過程を振り返って	26
	2	取り巻く環境について	27
	3	親学とは …親学の必要性	28
	4	…親学の理念と基本	29
	5	…親学の目指すもの	30
	6	親学の基本的な考え方…親について	31
	7	…子どもについて	32
	8	…家庭・家族について	33
	9	…子育てについて	34
	10	親学の実践 …親自身が成長するために	35
	11	…子どもの人間性をはぐくむために	36
	12	…愛のある家庭をつくるために	37
	13	子どもの発達段階ごとの特徴と親の関わり方	38
	14	胎児期⇒乳児期⇒幼児期前期⇒幼児期後期	39
	15	⇒児童期⇒思春期	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義 グループ学習		
テキスト/参考文献	「親学」の教科書 ―親が育つ子どもが育つ―PHP親学研究会[編]		
評価の方法や基準	出席率 授業態度 提出物 試験		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	保育園で3年・幼稚園(認定こども園)で21年勤務		
実務経験の活かし方	幼稚園教諭として経験してきた、子ども達とのかかわり方、保護者とのかかわり方など体験を実例としてあげ、幼児教育が学生たちに一層、身近に感じられるようにしたい。		
履修上の注意事項			

授業科目	児童文化	単位/時間	2単位 / 30時間	
開講学科等	福祉保育学科1年	担当教員	高野 慶子	
授業の目的・テーマ	児童文化の概念を理解するとともに、子どもたちが自ら文化をつくり出す基盤として欠かすことのできない言葉と、その言葉をもとに表現する力の大切さを重視し、どのようにすれば育むことができるのか考える。			
授業の到達目標	児童文化が何を意図して幼児教育の中に取り入れられたのかを理解するとともに、製作活動やさまざまな演習を通して自己の表現力を豊かにする。			
授業の計画	1	「児童文化」 学習ガイダンス	26	〃
	2	①児童文化の世界を知ろう	27	〃
	3	ことばと表現力を育む児童文化	28	おもちゃ
	4	〃	29	〃
	5	保育のなかで児童文化を考える	30	まとめ
	6	〃	31	
	7	児童文化の歴史	32	
	8	〃	33	
	9	子どもの育ちと児童文化	34	
	10	〃	35	
	11	②児童文化財を保育に生かそう	36	
	12	わらべうた・あそびうた	37	
	13	〃	38	
	14	ことばあそび	39	
	15	〃	40	
	16	おはなし	41	
	17	〃	42	
	18	絵本と童話	43	
	19	〃	44	
	20	〃	45	
	21	紙芝居	46	
	22	〃	47	
	23	〃	48	
	24	シアタースタイルの児童文化	49	
	25	〃	50	
授業の方法	一斉授業・班学習（討議、発表、レポート）			
テキスト/参考文献	ことばと表現力を育む 児童文化（萌文書林）			
評価の方法や基準	実技・筆記試験、レポート、演習、平素の学習態度（出席状況を含む）			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	保育士・幼稚園教諭			
実務経験の活かし方	幼稚園現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や現場で実践できる指導方法を伝えることで専門職としての向上を目指す学生を育成する。			
履修上の注意事項	講義および実技・演習に積極的に望み、授業内容を体得する。			

授業科目	保健医療と福祉	単位/時間	2/30	
開講学科等	福祉保育学科1年	担当教員	弘嶋 謙二	
授業の目的・テーマ	保健医療サービスに関する理解とソーシャルワークの展開			
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保険医療サービスを支える制度、施設、資格等の理解と多職種連携のあり方を理解する。 ・保険医療サービスに社会福祉士がどのように参画するか。その役割を理解する。 			
授業の計画	1	オリエンテーション	26	保健医療領域における支援の実際 ③ 事例1・2 をととして
	2	保健医療の課題をもつ人の理解 ① 病者の理解	27	保健医療領域における支援の実際 ④ 事例3・4 をととして
	3	保健医療の課題をもつ人の理解 ② 家族の理解	28	保健医療領域における支援の実際 ⑤ 事例5・6 をととして
	4	保健医療の課題をもつ人の理解 ② 患者の権利	29	保健医療領域における支援の実際 ⑥ 事例7・8 をととして
	5	医療倫理 ① 医療倫理と倫理的課題	30	まとめ
	6	医療倫理 ② 患者の意思決定をめぐる課題	31	
	7	保健医療の動向 ① 疾病構造の変化	32	
	8	保健医療の動向 ② 入院医療から在宅医療へ	33	
	9	保健医療の動向 ③ 病院完結型医療から地域完結型医療へ	34	
	10	保健医療の動向 ④ 病院完結型医療から地域完結型医療へ	35	
	11	保健医療の動向 ⑤ 保健医療における福祉的課題	36	
	12	保健医療の動向 ⑥ 保健医療における福祉的課題	37	
	13	保健医療の動向 ⑦ 保健医療における福祉的課題	38	
	14	保健医療領域に必要な政策・制度 およびサービスに関する知識 ① 政策・制度	39	
	15	保健医療領域に必要な政策・制度 同 ② 保健医療サービスの提供体制	40	
	16	保健医療領域に必要な政策・制度 同 ③ 医療費の保障	41	
	17	保健医療領域に必要な政策・制度 同 ④ その他の施策・制度	42	
	18	保健医療領域における専門職の役割と連携 ① 保健医療領域における専門職と院内連携	43	
	19	保健医療領域における専門職の役割と連携 ② 保健医療領域における専門職と院内連携	44	
	20	保健医療領域における専門職の役割と連携 ③ 地域の関係機関との連携の実際	45	
	21	保健医療領域における専門職の役割と連携 ④ 地域の関係機関との連携の実際	46	
	22	保健医療領域における専門職の役割と連携 ⑤ 医療機関におけるSWが所属する部門の構築	47	
	23	保健医療領域における専門職の役割と連携 ⑥ 医療機関におけるSWが所属する部門の構築	48	
	24	保健医療領域における支援の実際 ① 保健医療領域におけるSWの役割	49	
	25	保健医療領域における支援の実際 ② 保健医療領域におけるSWの役割	50	
授業の方法	テキストに基づく講義、演習等			
テキスト/参考文献	『社会福祉士養成講座 5 保健医療と福祉』（中央法規出版）			
評価の方法や基準	筆記試験もしくはレポートにより理解度を評価する。加えて出席数と講義中の態度も評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害者地域生活支援センター（相談支援専門員） ・精神障害者地域生活支援センター（施設長） ・共同生活援助 介護サービス包括型（施設長） 			
実務経験の活かし方	<ul style="list-style-type: none"> ・制度、資格、施設の現場、支援の実際等々、具体的な事例を含めて説明する。 ・多職種連携のあり方について現場の実務をつうじて具体的に説明する。 			
履修上の注意事項	授業に関する課題（情報収集や演習課題）を出す場合があります。			

授業科目	心理学と心理的支援	単位／時間	2単位／30時間	
開講学科等	福祉保育学科1年	担当教員	津江 美和	
授業の目的・テーマ	人の心の基本的仕組みと機能について学び、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。日常生活と心の健康との関係について考察を深め、現場で出会う利用者へのアセスメントや支援に活かそうとする。			
授業の到達目標	<p>科学としての心理学について理解する。</p> <p>心理学の基本的用語を説明し、日常生活でどのような場面が該当するか述べる。</p> <p>心理的支援の基本的技法について理解し、簡便な方法で用いることができる。</p>			
授業の計画	1	心理学の歴史	26	マイクロカウンセリング
	2	心理学の対象	27	精神分析
	3	心の生物学的基盤	28	エゴグラム
	4	脳と心	29	認知行動療法
	5	感情の機能	30	家族療法
	6	欲求と動機づけ	31	
	7	学習	32	
	8	般化と消去	33	
	9	認知	34	
	10	認知バイアス	35	
	11	記憶	36	
	12	記憶方略	37	
	13	知能	38	
	14	知能に関する測定	39	
	15	パーソナリティ	40	
	16	テストバッテリー	41	
	17	集団と人間関係	42	
	18	リーダー	43	
	19	発達	44	
	20	発達段階と発達課題	45	
	21	日常生活とストレス	46	
	22	燃え尽き症候群	47	
	23	アセスメント	48	
	24	支援計画と評価	49	
	25	心理的支援	50	
授業の方法	講義であるが、学生との問答を取り入れる。学生自ら考える主体的な態度を重視する。			
テキスト/参考文献	心理学と心理的支援 中央法規			
評価の方法や基準	授業中の態度と小テスト等（20％）、期末試験（80パーセント）			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	小学校教諭、幼稚園教諭、スクールカウンセラー			
実務経験の活かし方	具体的な説明や事例を交えながら、学生の理解を促進したい。			
履修上の注意事項	教科書を読むなどの予習、授業で内容に興味をもち、出会った用語について自分で調べてみるなどの復習。これをサイクルとして続けてもらいたい。			

授業科目	障害者福祉	単位/時間	2単位/30時間
開講学科等	福祉保育学科2年	担当教員	市川 憲文
授業の目的・テーマ	障がい者の生活環境等を理解し、生活環境や障がい者のニーズに応じた障害福祉サービスを使った障がい者への支援の方法を理解する。		
授業の到達目標	障害福祉の制度を知り、ソーシャルワーカーとして障がい者に対して、適切な制度を利用して、障がい者への支援体制を構築できるようにする。		
授業の計画	1	障害者の定義と特性①	26 関連する専門職の役割
	2	障害者の定義と特性②	27 障害領域におけるソーシャルワーカーの役割①
	3	国際生活機能分類と障害の社会モデル	28 障害領域におけるソーシャルワーカーの役割②
	4	障害観の変遷	29 障害者と家族等に対する支援の実際①
	5	障害者福祉の理念①	30 障害者と家族等に対する支援の実際②
	6	障害者福祉の理念②	31
	7	障害者福祉の歴史①	32
	8	障害者福祉の歴史②	33
	9	障害者の生活実態①	34
	10	障害者の生活実態②	35
	11	障害者と家族①	36
	12	障害者と家族②	37
	13	障害者を取り巻く社会環境と課題①	38
	14	障害者を取り巻く社会環境と課題②	39
	15	障害者に対する法制度①	40
	16	障害者に対する法制度②	41
	17	障害者に対する法制度③	42
	18	障害者に対する法制度④	43
	19	障害者に対する法制度⑤	44
	20	障害者に対する法制度⑥	45
	21	障害者に対する法制度⑦	46
	22	障害者に対する法制度⑧	47
	23	障害者と家族等の支援における関係機関の役割①	48
	24	障害者と家族等の支援における関係機関の役割②	49
	25	関連する専門職の役割	50
授業の方法	講義 個人ワーク グループワーク		
テキスト/参考文献	障害者福祉（中央法規）		
評価の方法や基準	テスト50% 授業態度50%		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	社会福祉士および精神保健福祉士を取得後、精神障害者通所施設および地域活動支援センターにてワーカーとして従事する（H20.7～H26.8）		
実務経験の活かし方	実際に支援したケースを引用しつつ、障害福祉の理念、法律・制度、多他職種連携についての学びを軸に、社会資源も活用した障害者支援（ソーシャルワーク）の実践についても言及していきたい。		
履修上の注意事項	多他職種連携に必要なコミュニケーション能力や姿勢についても意識してほしい		

授業科目	刑事司法と福祉	単位/時間	2単位/30時間
開講学科等	福祉保育学科1年	担当教員	柴岡 由絵
授業の目的 ・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・刑事司法の動向と制度の仕組みを理解する。 ・刑事司法における社会福祉士の役割について理解する。 ・刑事司法制度にかかわる関係機関等の役割について理解する。 		
授業の到達目標	司法制度の仕組みを理解し、保護観察、生活環境の調整、更生緊急保護、犯罪被害者にかかわる制度、犯罪予防等について理解することができるようになる。		
授業の計画	1	「刑事司法と福祉」総論①	26 刑事司法におけるアディクション
	2	「刑事司法と福祉」総論②	27 犯罪被害者等支援に関する制度の概要
	3	犯罪とは何か	28 犯罪被害者等支援の実際
	4	行刑と日本の犯罪	29 コミュニティと刑事司法
	5	犯罪原因論	30 まとめ
	6	犯罪原因論に基づく犯罪対応とその限界	31
	7	刑罰制度の歴史	32
	8	刑罰の本質と機能	33
	9	刑事手続の概要	34
	10	犯罪の成立要件と責任能力判断	35
	11	少年司法の機能	36
	12	少年司法制度	37
	13	日本の施設内処遇の歴史と制度	38
	14	成人矯正処遇の現状と課題	39
	15	少年矯正施設とは	40
	16	少年矯正施設での処遇の課題と社会復帰支援	41
	17	更生保護の意義と歴史	42
	18	更生保護制度の概要	43
	19	更生保護の実際	44
	20	更生保護における関係機関	45
	21	医療観察制度の概要	46
	22	社会復帰調整官の業務	47
	23	司法と福祉の連携	48
	24	犯罪・非行のあった高齢者や障害者の支援	49
	25	アディクションという考え方	50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	社会福祉士養成講座 「⑩刑事司法と福祉」(中央法規出版)		
評価の方法 や基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点(20%) 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	児童養護施設保育士 社会福祉協議会ボランティアコーディネーター 介護老人福祉施設生活相談員 居宅介護支援事業所介護支援専門員 高齢者施設管理者・FM(在宅)		
実務経験の活かし方	各テーマについて講義を行ったあと、事例等を紹介し、意見交換を行いながら理解を深めていく。		
履修上の注意事項	テキストに沿って各事項の概要を学習した上で、基本的事項の振り返りを行いながら進行するが、新聞等の刑事司法・少年司法に関わる記事に関心を持ち、日頃からよく読んでおくこと。		

授業科目	医学概論	単位/時間	2 単位/30時間
開講学科等	福祉保育1年	担当教員	近藤 多美
授業の目的・テーマ	ライフステージにおける私たちの身体や心について知る。 病気の理解をして予防や治療、健康、リハビリテーションについて学ぶ。		
授業の到達目標	私たちの身体を理解する。 病気や障害のある人などの健康管理や助言ができる。		
授業の計画	1	ライフステージにおける心身の変化と健康課題	26
	2		27 公衆衛生
	3		28
	4	健康及び疾病の捉え方。	29
	5		30 まとめ
	6	身体構造と心身機能、疾病と障害の成り立ち	31
	7	及び回復過程	32
	8		33
	9	リハビリテーションの概要と範囲	34
	10		35
	11		36
	12	疾病と障害及びその予防、治療、予後	37
	13		38
	14		39
	15		40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	参考文献からのまとめ、課題を整理する。まとめたことを発表、		
テキスト/参考文献	テキスト、参考文献など		
評価の方法や基準	科目試験、出席状況、授業態度		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	看護師として20年余り病院勤務をする。		
実務経験の活かし方	医療についての経験をもとに疾病や治療などの説明をしながら、SWとして何を学ぶのか理解してもらう。		
履修上の注意事項			

授業科目	権利擁護を支える法制度	単位／時間	2単位／30時間	
開講学科等	福祉保育学科1年	担当教員	柴岡 由絵	
授業の目的 ・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護を支える憲法、民法、行政法等の基礎を理解する。 ・社会福祉の関連領域としての司法福祉の概念を理解した上で、更生保護制度の概要と司法分野で活動する団体及び専門職や成年後見人制度について理解を深める。 			
授業の到達目標	更生保護制度に関わる法体系、専門職、関連機関との連携について理解する。授業では、適時、犯罪・非行事件を取り上げてディスカッションしつつ、それらの問題の背景を理解する力を養う。			
授業の計画	1	権利擁護に必要な法制度	26	任意後見の概要
	2	憲法	27	任意後見制度の概要
	3	民法	28	成年後見制度の動向
	4	行政法	29	日常生活自立支援事業
	5	法と規範	30	まとめ
	6	法の体系	31	
	7	法律の基礎知識と法の解釈	32	
	8	裁判制度と判決	33	
	9	権利擁護の意義	34	
	10	福祉サービスの適切な利用	35	
	11	虐待・暴力防止関係法の概要	36	
	12	障害者差別解消法の概要	37	
	13	意思決定支援	38	
	14	意思決定支援のガイドライン	39	
	15	インフォームド・コンセント	40	
	16	個人情報等の保護	41	
	17	権利擁護活動と社会の安全	42	
	18	権利擁護に関わる組織・団体①	43	
	19	権利擁護に関わる組織・団体②	44	
	20	権利擁護に関わる専門職	45	
	21	成年後見制度の概要①	46	
	22	成年後見制度の概要②	47	
	23	後見の概要	48	
	24	保佐の概要	49	
	25	補助の概要	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	社会福祉士養成講座 「⑨権利擁護を支える法制度」(中央法規出版)			
評価の方法 や基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(20%) 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	児童養護施設保育士 社会福祉協議会ボランティアコーディネーター 介護老人福祉施設生活相談員 居宅介護支援事業所介護支援専門員 高齢者施設管理者・FM(在宅)			
実務経験の活かし方	各テーマについて講義を行ったあと、事例等を紹介し、意見交換を行いながら理解を深めていく。			
履修上の注意事項	毎回、テキストに沿って各事項の概要を学習した上で、基本的事項の振り返りを行いながら進行する。			